

課題：生活環境を学んで思うこと

## 「生活環境コースを選んで」

11 期 菅田忠志

この2年、思えばなんと多くのことを学んできたことか。入学願書には「第1希望」から「第3希望」まで、すべての欄に「生活環境コース」と記載して提出した入学だった。

環境に関して、特に専門的な予備知識があったわけでもなかったし、特に強く意識した環境分野を持って望んだものでもなかった。

ただ、子供の頃には、今では考えられないほどほったらかしにされながらも、自然の中にどっぷり浸かって育ち、土の香りや木々の色合い、下草を刈り取った後のあの干草の匂い、川遊びの楽しさなどがからだの芯まで染み付いている。自然を相手に、そこら当たりのものをなんでも使って自分達で遊び道具をつくって遊んだことなどを思うとき、その、自分たちを育ててくれた身近な自然も、今どんどん様変わりしようとしていることに心が痛む。

「めだかもホタルもいなくなった」「トンボも蝶もすっかり少なくなった」と言うが、現状はそんな可愛い話ではない。もっともっと深刻な状況で進んでいるようだ。

「この先我々の回りはどうなるんだろう？ これからの子供達はどうか育ってゆくんだろう...」入学前からぼんやり抱いていたこの気持が、「生活環境コース以外はなし」との入学願書にさせたのだろう。

日本は、国土の67%を森林が占め、森林以外の河川や湖沼・森林のない山岳地帯などを合わせると80%近くにも達すると習った。また、日本は多くの森と清らかな水に接し、世界でも有数の自然環境に恵まれた国だとも教わってきた。実際、山や森林からは、四季の移り変わりと

共に、いろいろな恵みをもって生活してきた。

我々はその受けてきた恩恵に感謝しながら生活してきたはずであった。しかし、あまりにも無秩序に消費し、使ってあたりまえのように暮らしてきたために、ここにきてやっと「自然には限りがあること」に気がつき慌てているということか。

「地球温暖化」「酸性雨」「オゾン層の破壊」「砂漠化」「異常気象」「海水の温度と海水面の上昇」「氷河の融解」「熱帯雨林の激減」など、地球規模で進む将来の不安材料にはことかかなくなってしまった。

『消費は美德』と叫ばれた時代もあった。『大量生産、大量消費』で国力を増してきたところもあった。最近でさえ、『修理より買い替えを』というコスト概念が、間違った経済観念として流れている。今これらのことに気付き、猛反省すべきタイムリミットにきているということなのだろう。

授業では、生活様式が変わり、炭・薪からガス・電気を使うようになり、自然環境保全のうえからも大きな役割を担ってきた「里山」が人々の手から離れていったこと。

世界の先進諸国に比べて「日本の食糧自給率の低さ」や、国政・国策からどんどん田畑が減反されていったことも習ってきた。

今は幸い「化石燃料」も「食糧」も、不安定ながらも「金の力」で解決できている。しかし、“借金大国日本”、“高齢化と人口減少国日本”が、この先もこの状態をつづけられるとはどうしても思われない。

とりわけ日本人の意識の大改革が迫られているように思われてならない。もう少し世界の中に置かれている日本の足元をみんなですっかりと見つめてゆかないと。

日本人はえび好きだからと、「マングローブの林をどんどん壊し、養殖

えびを大量に輸入する」ようなことはもう止めよう。

かわいいから、好きだからと「世界のペット動物・昆虫・爬虫類を毎日のように空輸してくる」のももう止めよう。

日本人の心はもっとやさしいものであったはずだ。「もったいない」思いを強く持っている素直な国民であったはずだ。

我々の世代が体験した戦後のあの「ひもじいつらい思い」は決して望まないが、金を出して買ってきた食糧を、封も切らずに捨てているような生活をしていることの重大性を早く認識しないと、TV 番組じゃないけれど「大変なことになりますよ」ということだろう。

世間を賑わす悪質なニュースが後をたたないこの頃だが、この「大変なこと」になる重大性・深刻さを、もっともっとお茶の間の重大ニュースとして取り上げるマスコミが出てきてもよさそうなものだが、これも今の日本人の関心ごとの焦点が『壊れゆく地球』には向いていないということだろう。

『またまた買った食糧が、封も切らずに捨てられている現場から中継でお伝えしました...』などが、ニュース番組で生々しく伝えられるようになれば、国民の目もさめ、意識も変わってくるのでは...。

そして、さらに期待したいことは、全国の環境分野専門の研究者や学者の先生方が、研究所や学会・教壇から気さくに出てゆかれ、もっともっとお茶の間にTV出演していただき、声を大にして国民の耳に「大変なことになりますぞ...」という深刻なメッセージを強力に届けていただきたいということ。

我々なりに教わったことを少しでも広く実践してゆくことの大切さも学んだが、先生方の訴える力の強さ、意味の深さを考えれば、その効果は測り知れないと思います。

是非「タケシ先生」に変わり、「環境先生軍団」での番組の立上げをお願いします。

追伸

先日のNHK2夜連続のスペシャル番組『100年後の地球』は非常なショックであった。あのような番組こそ政府の政治判断でNHK・民放全チャンネルに一斉放映させるくらいの決断力があってもよかったのではないか、との思いを強くもちながら、日本の行く末を託す政治の責任の重さを、もっとしっかり認識してもらいたいものだと思痴りながら見ていたことを付け加えて終わります。